



リソースナース便り

担当：吉田奈津美（緩和ケア認定看護師）

痛みは第5のバイタルサイン！！

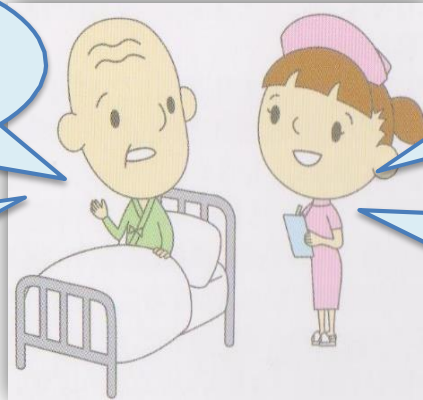
症状緩和において、**痛みの治療と看護は最も重要**とされており、がん患者においては、診断時に2～5割、進行がん・末期がん患者では8割に痛みがあるとされています。体温や脈拍、血圧と同様、痛みを第5のバイタルサインとして**定期的に尋ねることが、痛みのアセスメントやケアにつながります。**

【痛みのアセスメントに必要な情報】

（アセスメントの基本は患者の主観的な表現を大切にすること！！）

- ①痛みの有無、②痛みの部位、③痛みの性質、④痛みの程度
- ⑤痛みによる日常生活への影響（食事、排泄、移動、睡眠など）
- ⑥今以上の疼痛コントロールを希望しているか（患者にとっての疼痛治療の目標）
- ⑦身体所見（表情、行動、皮膚の状態、感覚異常、痙攣、筋委縮、圧痛など）
- ⑧画像所見（X線、CT、MRI、骨シンチグラフィーなど）
- ⑨鎮痛薬の使用状況や効果、副作用

- ①痛みがありますか？
- ②どこが痛みますか？
- ③どのように痛みますか？
（ずん、ビリビリ、ズキズキ）



- ④痛みの強さを10点満点で表すと何点ですか？

- ⑤痛みがあることで、日常生活に影響がありますか？
痛みで目が覚めますか？

- ⑥もう少し痛みが楽になればいいと思いますか？

内服困難な場合、貼付剤よりも速やかに効果が得られ、かつ、安全な投与が可能な持続皮下注射をご検討ください◆

持続皮下注射（オピオイド）の適応

- ・経口投与が困難な場合
- ・経口や経皮（貼付剤）投与では効果が不安定な場合
- ・静脈路がなく迅速な疼痛コントロールを要する場合
- ・高用量のオピオイドを要する場合



腎不全や透析患者でinをできるだけ減らしたい時や、心不全患者の呼吸困難にもおすすめです！！